

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業  
取組の概要と選定委員会からの主なコメント

代表校名 (連携校名)	富山大学 (新潟大学) 計2大学
事業名	臨床医学と社会医学を駆使して地域を守る医療人の養成
事業責任者	医学部長 関根 道和
事業の概要	
<p>コロナ感染症の拡大による医療体制の劇的な変化は、病める個人へのアプローチを中心とする臨床医学的能力に加えて、地域によって異なる保健・医療ニーズとリソースのアンバランスを理解し、行政も含めた多職種協働によってそれらの解決を図る社会医学的能力の必要性を明らかとした。未来の安全環境の保持、健康維持増進のためには必須の能力であり、その獲得には地域課題を実感でき、主体的に関わることができる医療フィールドの設定が重要である。本事業では、地域医療構想の重点支援区域である新潟県上越地域をフィールドとして、感染症・社会医学、救急・災害医療など特色ある医学教育を基盤に地域で活躍する総合的な診療能力を有する医師育成に取り組んでいる富山大学、新潟大学が連携して「臨床医学と社会医学を駆使して地域を守る医療人」を養成する。この広域医療圏の医療課題を解決する人材養成モデルを全国に発信し、日本の医療の質の向上につなげる。</p>	
選定委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○全学生に対し基本講義をオンデマンドで実施し、そのうえで希望者にアドバンスとして実習を行うというリーズナブルな設計を評価する。</p> <p>○上越地域という、本事業の課題意識に合致する地域との連携が既に存在し、そこを実習先を選んでいるのも優位点であり、2大学共通の課題など地域性についてよく練られている。</p> <p>○自己評価において、学生・教員に加えて地域病院からのフィードバックを設定しているところを評価する。</p> <p>○学生が主体となるオンラインでの連携大学合同プログラムは魅力的である。</p> <p>○モデルの他大学への展開、地域への還元等が期待できる。</p> <p>○内容が多岐に及んでいるものの、目的に向けて統合された計画になっていることを評価する。</p> <p>●総合診療、救急災害医学、感染症、社会医学などの各領域の準備状況に関する記載がない。</p> <p>●連携校のプログラムの実習型科目での学習内容や到達目標がやや具体性を欠いている。</p> <p>●外部評価の記載が具体性に乏しい。</p> <p>●事業終了後に教員増員が困難な点、運営予算面の構想が不十分な印象を受ける。</p> <p>●卒業生のキャリアパス構築における大学関連の意義の記載が不十分である。</p> <p>●資金調達の見込みを持っていることは評価するが、オンラインコンテンツの販売が自主財源としてカウントできるほどの金額規模となるためにはコンテンツそのものが非常に魅力的でなければならず、その点に不安がある。</p>	